

第3・4学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

| | | |
|-------------|--------|---|
| A 表 現 | 歌 唱 | <p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能</p> <p>(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能</p> <p>(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲全て）を含めて斉唱や平易な合唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第3学年 「うさぎ」（日本古謡） 「茶つみ」（文部省唱歌） 「春の小川」（文部省唱歌）「ふじ山」（文部省唱歌） 第4学年 「さくらさくら」（日本古謡） 「とんぴ」葛原しげる：作詞 梁田貞：作曲 「まきばの朝」（文部省唱歌） 「もみじ」（文部省唱歌）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、中学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。 ・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。 ・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。 |
| | 器 楽 | <p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で学習した教材を含め、器楽のためにつくられた重奏や合奏などの曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽教材の選択に当たっては、音楽の構造や楽器の組合せなどが児童の実態に即したものであり、和音の響きを聴き取りやすく、楽しく表現できる曲であること。 ・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。 ・第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器、和楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。 |

| | |
|------------------|---|
| A 表 現 | <p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと。</p> <p>(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づき、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p> |
| B 鑑 賞 | <p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 和楽器を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く楽しさを得やすい曲</p> <p>ウ 楽器や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい、独奏、重奏、独唱、重唱を含めたいろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、音楽の聴き方や感じ方を広げられるように、児童にとって親しみやすく音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取ることのできる曲を選択する。</p> |
| 共 通 事 項 | <p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。</p> |

3 評価の観点の趣旨

| 観点 | 観点の趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <p>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。</p> <p>・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |